

平成 29 年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で想像力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力のある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子
 ≪児童目標≫ やさしい子 元気な子 よく学ぶ子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

明るく、楽しく、活気にあふれ、児童にとって「行きたくなる学校」、保護者や地域住民にとって「行かせたい学校」、教職員にとって「勤めたい学校」にしたいと考える。

そのため、教職員が使命感に燃えて教育活動の充実に努めるとともに、保護者や地域との協働による「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「21 世紀をたくましく生き抜く力」の育成を目指し、「学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえるとともに、地域の教育力を有効に活用した特色ある教育活動を推進する。
- (2) 「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心など育む豊かな体験活動と、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
- (3) 「健やかでたくましい子」を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- (4) 「自ら学び自分をのばす子」を育成するため、学ぶ意欲を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を推進する。
- (5) 全ての教職員が、倫理観と使命感をもつとともに真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にする教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。
- (6) ○星が丘地域学校園小中一貫教育と、魅力ある学校づくり地域協議会（夢工房）による保護者、地域との連携強化を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

[星が丘地域学校園教育ビジョン]

未来を拓く豊かな社会性の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

合言葉を《からだ元気 ころろ元気 元気に学ぶ 昭和の子》として、『昭和の子 元気プラン 2017』を推進する。また地域の教育力を有効に活用して学校地域協議会と一体となり、地域とともにある学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成

～人や地域とつながり、未来を切り拓く 生活科・総合的な学習の時間を通して～

【児 童 生 徒 指 導】

自分を大切にし、他者もかけがえのない存在として大切にする態度・実践力の育成

○・心のこもったあいさつや言葉づかいの育成

・自分・友人・家族・地域を大切に思える心の育成

・進んで自分の責任を果たそうとする力や態度の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

自他の命や健康の大切さを知り、健康・体力・安全の向上に心がける態度・実践力の育成

○・健康・安全に心がけて生活できるようになるための食育・保健指導・安全教育の推進

○・体育の授業等での学年に応じた体力づくりの実践

・八幡山などの教育資源を活用した行事等の工夫

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めると共に、児童会・委員会活動など児童の主体的活動や縦割り班活動を積極的に展開する。 ②授業の様々な活動を通して、教職員が児童のよさを認めるとともに児童相互に認め合う場を設ける。	B	【達成状況】 A1：昨年度と比較すると、児童の肯定的回答が 95.2%と高く、目標は達成できた。 児童が意欲的に取り組む学校行事等を計画的に実施するとともに、教職員が共通認識をもって認め励ます指導を実践した。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② 継続して指導する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①教師個々の能力が発揮できるよう特性を生かした組織の編成に努め、職員が協力して児童の指導に当たる。 ②児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、努力したところは認め、指導すべきところはきちんと指導する。	B	【達成状況】 A2：児童の肯定的回答が 99.4%と高い数値を示している。 教師個々の特性を生かし、職員が協力して児童の指導に当たるとともに、教職員が共通認識をもって認め励ます指導を実践した。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② 継続して指導する。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①授業での話し方・聞き方の指導の徹底に努めるとともに、「昭和小児童 10 の約束」や年間重点目標の指導の徹底を目指す。 ②休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。特に登下校時は、保護者や地域の方と連携し、安全指導を充実させる。 ③児童会活動において、マナーについて呼びかける活動を行う。	A	【達成状況】 A3:教職員の肯定的回答 91.3%, 児童が 86.1%と、指標よりは上回っているものの、教職員の肯定的回答が去年より 10%近く減少した。 昭和小児童 10 の約束をもとに重点目標を設けて指導するとともに、廊下の歩行については、右側歩行の意識づけを図るための環境改善を行った。 【次年度の方針】 ① 「昭和小児童 10 の約束」を継続的に指導し、さらに意識化を図るための手立てを具体的に講じる。 ② 廊下の歩行など、きまりを守っていることを、認めほめながら、意識を高める指導を工夫する。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①全校共通の板書表示を作成し、必要に応じて活用するなど、わかる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ②児童が意欲的に取り組めるように習熟度別学習・少人数指導・チームティーチング等の授業形態や分け方を工夫し、学力向上を図る。	B	【達成状況】 A4：児童の肯定的回答 98.7%と目標値を達成している。 全校共通の板書表示が定着してきたことにより、めあてを意識したり振り返りの時間を確保したりすることができた。児童が学習の流れをつかみやすく、学習内容をより理解できるようになった。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② 少人数指導だけでなく、内容に応じながら効果的な習熟度学習を工夫して実施する。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 80%以上	①「いじめゼロ集会」や「いじめゼロ強調月間」などの機会に、いじめられる人の気持ち、いじめた人の気持ち、周りの人の気持ちなどを考えさせ、いじめ根絶への意識を高める。 ②年3回「いじめアンケート」を実施して実態を把握し、問題の早期発見と解決に努める。必要に応じて、職員間で情報の共有を図る機会を持つ。 ③いじめに対する対策を学校だより・学年だよりや学校ホームページなどを通して積極的に公表する。	【達成状況】 A5：教職員が 100%、児童が 99.7%、保護者が 81.4%、地域が 95.8%で、すべて目標値を上回り、昨年度より肯定的回答が増えた。 また、いじめの早期発見、早期の組織的対応を行い、深刻ないじめの発生に至らなかった。 いじめゼロ運動を通じた意識啓発や、学校便り等による周知が実を結んでいる。 【次年度の方針】 ① ② ③とも取組を継続し、これまでと同様にいじめの早期発見、早期の組織的対応に努め、早期解消を図る。また、心を育てる道徳教育を継続して実施する。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「私の学校生活や、様々な活動は充実している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①前年度の学校評価を踏まえて教育課程を編成するとともに、学校行事・授業参観の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートにより、工夫改善を図る。 ②学校地域協議会への説明や授業公開等を行い、意見を反映させながらより開かれた教育課程の実施に努める。	【達成状況】 A6：児童の肯定的回答が 95.8%と高い数値を示している。 学校行事・授業参観等の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートの結果を踏まえ、工夫改善を図った。 【次年度の方針】 ① 継続しつつ、学校評価等の結果を踏まえて、さらに工夫改善を図る。 ② 今年度と同様に、より開かれた教育課程の実施に努める。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①授業参観および懇談会（年2回）・学校自由参観・音楽集会・親子ふれあい活動（各学年）を実施するとともに、積極的な参加や参観を呼びかける。 ②学校だよりを月1回程度発行し、保護者・地域住民に配付・回覧する。また、ホームページによる情報の公開に努めるなど、必要な情報や学校の取り組みなどを適宜積極的に発信する。	【達成状況】 A7：保護者の肯定的回答が 94.4%、地域住民の肯定的回答が 100%と、いずれも高い数値を示している。 音楽集会や親子ふれあい活動などの参加率も高く、保護者の関心の高さがうかがわれる。 【次年度の方針】 ① 継続しつつ、学校公開の期間や方法について検討し、さらに工夫改善を図る。 ② ホームページの更新を本年度同様に実施しながら、保護者に閲覧を進める。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①昭和小夢工房（地域協議会）を中心とし、各種団体との連携を図り、諸活動を充実させ実施していく。 （ゲストティーチャー・安全ボランティア・盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等） ②企業や公的機関の実施する授業協力を活用するとともに、地元の企業商店等の協力等によるインターンシップ活動等を実施する。	【達成状況】 A8：保護者の肯定的回答が 94.0%、地域住民は 100%と高い数値を示している。 盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等各種団体主催の行事の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ① 地域コーディネーターとの連絡調整をさらに密にし、ゲストティーチャーの活用を図りながら各行事を実施する。 ② 今後も、企業や公的機関の実施する出前授業などを積極的に活用するなど、継続して実施する。

		A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①日常の清掃活動のほか、クリーン活動週間を位置付け、充実した清掃活動に繋げる。また、定期的な環境点検を実施し、迅速に補修を行い、回復補修に努める。 ②校内掲示計画・花壇栽培園計画の見直しや、児童による各種委員会活動を通して、潤いのある学習環境づくりに努める。	B 【達成状況】 A9：保護者の肯定的回答が 93.8%，地域住民が 96.3%と高い数値を示している。 全職員による定期的な環境点検を実施し、学習がしやすい環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 継続して実施する
		A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 小中一貫教育として、乗り入れ授業を年間 8 回実施し、小・中学校相互の理解を深め、9 年間を見通した教育効果を高めるよう努める。	B 【達成状況】 A10：保護者が 92.2%，地域が 96.3%，と、非常に高く、小中一貫教育への理解を示している。 小中学校が連携したあいさつ運動や、乗り入れ授業等の交流が、計画的に行われている。 【次年度の方針】 ① 取組を継続しつつ、新地域学校園ビジョンのもとで、小中学校間での連携を一層密にしていく。
		B1 児童理解に努め、様々な問題を抱える配慮児童への適切な指導がなされている。 【数値指標】 学校アンケート「先生は、困ったときに相談にのってくれ、解決の手助けをしてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①教育相談週間（年 2 回）や日常の相談活動、Q-U 検査等を通して児童理解に努める。 ②特別支援教育コーディネーターや担任との連携のもとかがやきルームの効果的活用を図る。 ③教職員全員で配慮児童の情報を共有し、連携を図る。	B 【達成状況】 B1：児童が 97.7%と非常に高い肯定的回答を得ている。 教育相談を計画的に実施し、児童理解に有効に活用するとともに、特別支援コーディネーターを中心に、ケース会議等を必要に応じて開催し、支援体制を強化した。 【次年度の方針】 ①、②、③とも取組を継続しつつ、配慮児童への適切な支援につながるよう教師間の連携をさらに密にしていく。
	教育活動の状況 生活	A11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①教師が進んで日常的なあいさつを実践し指導するとともに、児童会による縦割り班でのあいさつ運動を年間を通して実施する。 ②望ましいあいさつの仕方について指導する機会をもつ。 ③児童会を中心としたあいさつ運動を継続、拡張し、中学校とも連携しあいさつ運動を励行していく。	A 【達成状況】 A11：児童が 93.2%，保護者が 79.3%，地域が 88.9%となり、保護者の肯定的回答がわずかに数値指標を下回った。 しかし、前年度よりは増加しており、向上は見られた。 【次年度の方針】 ①、②、③とも取組を継続しつつ、ほめる機会を増やし、意識を高めるとともに、家庭の啓発にも努める。

		A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①相手を「～さん」と呼んだり「～です。～ます。」などの丁寧な言葉遣いをしたりすることを奨励し、言語環境を整えるとともに、保護者にも呼びかけ、日常化を図る。 ②休み時間や学校外の言葉遣いについても指導するとともに、地域の行事等の機会を生かし、地域や家庭との連携を図る。	B 【達成状況】 A12：児童の肯定的回答は、85.9%と目標を達成し、昨年度と比較して微増した。 保護者評価は7.4%増加となったが、76.4%と十分とはいえない状況である。 言葉と礼儀について、日常的に指導し生活に生かせるよう、同歩調での指導が必要である。 【次年度の方針】 ①，②とも取組を継続し、家庭での指導も働きかけ、連携した指導を行う。
		B2 人権の大切さを知り、誰とでも仲良く生活している。 【数値指標】 学校アンケート「友だちと仲良く遊び、わけへだてなく接している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級・学年でのグループ活動や縦割り班活動を通して、仲間意識を育て支え合う集団づくりを推進する。 ②地域学校園の重点課題である、思いやり・情報モラルを育む道德の授業を通し、人権を尊重する態度を身につけさせる。	B 【達成状況】 B2：児童が95.2%と多くの児童が、肯定的な回答をしている。 縦割り班活動等が有効に働いていると考えられる。 【次年度の方針】 ①，②とも取組を継続する。
	健康・体力	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童・生徒は、休み時間や放課などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①のびのびタイム（毎週1回）休み時間・昼休み等において校庭での遊びを奨励し、用務の無い限りは教師も率先して児童と遊ぶ。 ②学年の発達段階に応じて自主的に取り組める補強運動（サーキットトレーニング等）の例示を拡充し、教科体育の充実を図るとともに、体力づくりのための行事を行う。 （縄跳び検定・水泳検定・鉄棒検定・ミニマム・山野横断大会他）	A 【達成状況】 A13：児童の肯定的回答は、87.8%で十分達成された。 のびのびタイムは計画的・効果的に実施できた。外遊びを奨励したことにより、休み時間（昼休み）は、ほとんどの児童が外に出て遊んでいる。また、ミニマムの検定の目標に向けて、意欲的に取り組むことができた。運動委員会主導でのミニスポーツ大会などで運動の機会が増えた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。学級懇談会等で放課後の外遊びについて啓発していく。 ② 継続して実施する。
		A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童生徒は好き嫌いなく給食を食べている：児童」「自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている：保護者」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①給食の時間に、学校栄養士が各学級に計画的に入り、発達段階に応じた栄養指導を行うとともに、食育への啓発を図るために食育だよりを発行する。 ②学級活動や家庭科、生活科、保健の授業において、学級担任は学校栄養士や養護教諭とともに食に関する指導を積極的に実施する。	A 【達成状況】 A14：児童の肯定回答は81%で十分達成されたが、保護者は73.5%と80%を下回った。 【次年度の方針】 ① 給食では、好き嫌いなく食べられるようになってきているので、学級懇談会や食育だより等で食の現状や取組について周知していく。 ② 継続して実施する。

学 習	A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上	①児童が意欲的に取り組めるような場を設定し、発問等を工夫する。 ②目的を明確にしたグループ作りを工夫し、児童が互いに考えを出し合い高め合えるようにする。	A 【達成状況】 A15：児童の肯定的回答 94.9%と目標値を達成している。児童の肯定的回答は昨年より上がっている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② グループ学習についてのマニュアル作りに着手する。
	A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①発達段階に応じた学習のきまりを作成したり、学級の実態に応じた月の学習目標を決めたりすることで、学び方を身につけさせるとともにわかる授業の展開に努める。 ① 学年の発達段階に応じて、聞き方のポイントを示した掲示物や声の物差しを作成し、児童の意識化を図る。	A 【達成状況】 A16：児童の肯定的回答 88.7%と目標値を達成しており、児童も保護者も昨年度より肯定的回答が上がっている。 実態に応じた月の学習目標を決めるなどの取組を全学級で行った。 【次年度の方針】 ① 全校共通の授業のきまりを検討し、重点項目を絞り、実施をめざす。 ② 継続して指導する。
	B3 児童は、読書の楽しさを知り、本をたくさん読んでいる。 【数値指標】 学校アンケート「私は、本を読むことが好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①おはようタイムに週2回読書の時間を設け、月3回のボランティアによる読み聞かせを実施するほか、教師の読み聞かせの機会も積極的に実践していく。 ②図書館の積極的活用とともに、図書館便りや学校園ほんよみネット等を通して、家庭にも協力を呼びかけたり読書カードを活用したりして、読書時間の確保を図る。	A 【達成状況】 B3：個人差はあるものの、児童の肯定回答は85%以上で達成されている。 読み聞かせボランティア「おひさま」による読み聞かせの時間では、どの学級でも本の世界に没頭して聴き入っている姿が見られ、図書室でも意欲的に読書する姿が見られた。 【次年度の方針】 ① 教師の読み聞かせを実践していく。 ② 継続して実施し、家庭での読書時間の確保を図る。
本校の特色・課題等	B4 児童は、八幡山公園における活動・行事に、楽しく参加している 【数値指標】 学校アンケート「私は八幡山公園での授業や行事は楽しく、一生懸命取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①教科指導や学校行事において、自然観察や史跡観察、ウォークラリー、野外給食、山野横断大会等、八幡山公園での活動を工夫して実践する。	B 【達成状況】 B4：児童の肯定回答は、96%と十分達成されている。 八幡山を活用した活動を、全校的には計画的に実施し、各学年でも教育内容に応じて効果的に活用できた 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ただし、野外給食は衛生面への配慮により、教室での縦割り班給食に変更する。

	B5 主体的に考え、互いに学び合う力が育っている。 【数値指標】 学校アンケート「私は自分の考えを伝え、友だちの考えを聞きながら、学習することが楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①他とかかわり合いながら主体的に学べる場を設定することにより、話す力・聞く力・コミュニケーション力や社会性を育てる。	【達成状況】 B5：児童の肯定的回答 91.9%と目標値を達成している。保護者の肯定的回答が 85.7%と、昨年よりやや低くなった。質問の意味が分かりづらいことも考えられる。 体験活動や外部や地域のボランティアによる活動を取り入れる学年が増えたことで、コミュニケーション力や社会性が育ってきている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。
--	--	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け、「からだ元気、こころ元気、元気に学ぶ昭和の子」を合言葉として、昭和小学元気づきプラン2017を推進し、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、保護者や地域と協働のもと、八幡山を活用した学校行事や、児童を主体とした縦割り班活動などを展開するとともに、認め励ます教育を推進し、子どもが楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指してきた。

そうした中で、学校マネジメント全体アンケートの結果では、児童・保護者・地域住民の肯定的回答の割合は全般に高く、児童の評価では「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」99.4%、「いじめが許されない行為であることを指導している」99.7%、が特に高い値であった。

組織的に。協働して教育活動に取り組んできた成果が表れたと受け止めている。

○ 加えて、「小中一貫教育・地域学校園」にも、星が丘地域学校園で連携した取組を積極的に進め、学校マネジメント全体アンケートの結果では、保護者92.2%、地域96.3%、児童92.6%と、肯定的回答の割合が、いずれも全市を上回る状況であった。本年度、新たなビジョン作成にも連携して取り組んだところである。

6 学校関係者評価

平成30年2月19日（月）に、昭和小学校地域協議会を開催し、その中で、うつのみや学校マネジメントシステム全体アンケートの結果を説明するとともに、本学校評価書における教職員による自己評価結果を説明し、学校関係者評価としての意見を求めた。

その中では、次のような意見が出された。

- ・ 昭和小の子どもたちは、あいさつがよくできる。登下校中もよくあいさつをしてくれ、また、学校を離れ地域で活動している時にも、自分からあいさつをしてくれる子が多い。
- ・ 一方で、登下校中に声をかけても、あいさつの声が小さい子もいる。
- ・ 子どもたちが元気に生き生きと生活している。
- ・ 本校は、本年度キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受けたが、これは、長年続いている子どもインターンシップの取組や、地域と協働して行う行事が素晴らしいと評価されたものだと聞いている。

学校ボランティアとして今後も協力するとともに、盆踊り、昭和まつり、どんど焼きなどの地域の特色ある行事も継続してできるよう、学校と連携・協力を深めていきたい。

- ・ 全体アンケートの肯定的評価の割合について、全市平均との比較では、昭和小は全体的に上回っているものの、「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動している」の項目で児童の評価が全市平均を下回るなどの課題も見られる。改善策をしっかりと進めて欲しい。
- ・ 全体アンケートの肯定的評価の割合について、昨年度との比較では、地域、児童に比較して、保護者の評価が若干厳しいようである。（自分の家庭での子ども様子からの評価という面もあるのではないか。）
- ・ 児童の教職員の指導に対しての評価が高いことに安心感を覚える。「先生は熱心に分かりやすく指導してくれる。」「いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」ことなどを児童が感じているというのは、大変素晴らしいことであると感ずる。
- ・ 全体アンケートの回収率について、保護者・児童がほぼ全員であるのに対し、地域に課題がある。
- ・ 全体として高評価を得ている中で、一部の課題に対する改善策をしっかりと講じていくことはもちろん大切だが、何が高評価に結びついているかも振り返り、しっかりと継続していくべきこと、大切にすべきことを確認して取り組むべきだ。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、本年度、「からだ元気 ころ元気 元気に学ぶ 昭和の子」を合言葉に、創意ある教育活動の展開に努め、各教科、道徳、特別活動・総合的な学習の時間・会話科（ことば・英会話）のねらいや内容の明確化・焦点化及び指導法の工夫や改善に努めてきたが、本年度の学校評価を踏まえ、次年度は以下に取り組む。

【学級経営の充実】

生き生きとして活気がある学校であるとの評価結果を踏まえ、児童と教師、児童相互の良好な関係を一層強固にし、居場所のある学級づくりを進めるため、以下に取り組む。

◎ 児童が相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。

- ・ 担任の個性・特性を生かした学級の経営に努める。

【児童指導の充実】

あいさつがよくできるなどの学校関係者評価や、児童指導に関する教職員による評価等を踏まえ、基本的生活習慣の定着を図るため、義務教育9年間を見通しながら全校共通理解のもとで学年の発達段階に応じた指導を行う。特に、以下に力を入れて取り組む。

◎ 心のこもったあいさつや、その場にふさわしい言葉づかいができるよう継続的な指導を一層推進する。

- ・ 学校いじめ防止基本方針に基づき、「いじめゼロ運動」を推進し、望ましい児童集団の育成を図るとともに、教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解し、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。
- ・ 全教職員の共通理解の下、情報交換の場や機会を十分に確保し、不登校や集団生活への不適応を生じている児童への支援体制や、問題行動への組織的な対応を強化する。
- ・ 携帯電話等の危険性等に関する情報モラル教育を計画的に実践する。

【学習指導の充実】

学校評価でも高い評価を得るとともに、各種学力調査等においても国、県、市の平均を上回る結果であり、これまでの取組を継続する中で、特に知識や技能を確実に身に付けられるよう、分かる授業の展開と個に応じた指導の充実を図る。特に、以下に力を入れて取り組む。

- ・ 児童が自ら考え分かりやすく表現できる授業を目指し、授業展開の工夫に努める。
- ・ 基本的な学習態度や学習技能を、義務教育9年間を見通しながら、全校共通理解のもとで学年の段階に応じた指導を行う。
- ・ 体験的な学習や問題解決的な学習活動により、児童が主体的に学ぶ学習活動を重視する。
- ・ じっくりタイムの実施や家庭学習の習慣化により、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 児童が学習課題や活動を選択したり、自らの生き方を考えたりする機会を多くする。

◎ 授業研究会や、授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上に努める。

【健康・安全教育の充実】

学校評価においては、全体アンケートの中で「進んで運動すること」等について課題も見られたことから、体力増強のための取組の改善に努めるとともに、健康教育、食育、安全教育についても指導の充実を図る。特に、以下に力を入れて取り組む。

◎ 健康・安全に心がけて生活できるよう、食育・保健指導・安全教育を推進する。

◎ 体力向上のため、体育の授業等で、学年に応じた体力づくりを実施するとともに、八幡山などの教育資源を活用した行事等を行う。

- ・ 自分の健康に気をつけ日常生活の管理ができるよう生活指導や学級活動の充実を図る。
- ・ 周囲の清潔・衛生に心がけられるよう清掃指導の充実を図る。
- ・ 食の指導の充実を目指し、教科の指導計画の中に位置付けて指導する。

【その他】

上記に加え、本校の特色であるキャリア教育を一層推進するとともに、八幡山などの自然環境、県庁を始め近隣の公共機関等、地域の資源を最大限活用して教育の幅の拡張に心がける。